らしいんです。やっぱり男は見えないで、やっぱり妊娠したと。これが神の何か、神の子が宿っているという何が、こちらでの伝説があるんですよ。神の子。風の子ともいうていますね、これ。立派な子どもが産まれて。

その本人もですね、本人にはとにかく夢で、毎晩寝る時に必ずこの、きれいな若い男がね、娘の側に寝よったというそうです。だけど、『おかしいな』とそう思って。ただわずかな時間だけで、泊り通しでなくて、夜明けまで、わずかな時間にやっぱり娘のところに寝て。すぐ帰って。

それが、子ども産んで何したら、今、風の子と言いましてな。最初はお母さんのほうでは、神の子と名付けてあるし、神の子とか風の子とか。それが伝説があるんですよ。それがですね、成長して偉い人になったと。

字新垣　宮里栄吉

50　ハブ聟入（苧環型）

その娘、それためしにしてやっぱり、毎晩毎晩来るんだから。それで糸を付けて、針と糸と付けたら、糸をたどって行ったら、ハブの目玉に。それやっぱり、ハブの目玉には入ってなかったらしいですね。その着物の襟に、よく見たら、着物の襟に付いていたと。こちらの何はあるんですよ。伝説は。

それからまた、だいたい似たような話でですね、これはまた、神の子。ハブとの子でなくてですね、その娘が、若い男と何も恋をしてないのに、急にはらんでしもうてですね。お母さんが不思議に思って。そしたら、その娘もですね、もう産み月になって、もう子どもを産まないといけない。これ、お母さんも認めていたらしいですよ。もう、年頃も年頃だから、やっぱり、とにかくもう、若い男が来るのはもう間違いないから、妊娠しているから。それはやっぱしお母さん、よく毎晩その、起きていて、試してみようと隠れて見ていた